

呼吸器診療シークレット

Pulmonary/Respiratory Therapy Secrets, 3rd Ed.

著: Polly E. Parsons,
John E. Heffner

監訳: 八重樫牧人, 田中竜馬

B5変型 頁748 図37
定価8,820円(本体8,400円+税5%)
[ISBN 978-4-89592-556-3]MEDSi刊

このたび、八重樫牧人先生、田中竜馬先生によって監訳出版されたParsons & Heffnerの『呼吸器診療シークレット』はきわめて異色の書である。これまで類書は日本ではなかったものだが、米国ではこの『シークレット』シリーズは広く受け入れられ、定着しているようである。

本書はきわめてユニークな体裁をとっており、呼吸器領域に関する疾患、検査、治療の全76項目が選ばれており、各項目にはおおよそ20~30のQ & Aが掲載されている。したがって全体で2000弱の呼吸器領域に関する疑問に答えるという形である。

取り上げられた質問は、基本的なものから高度な知識を要するものまでさまざまであり、この日本語版では監訳者らによってAの医学生レベル、Bの研修医レベル、Cの専門医レベルにランク付けされている。この中には、例えば「市中肺炎の治療はどのくらい続けられるべきか?」といった日常すぐに役立つものから、「サルコイドーシスを発症するのはどのような人か?」「ステントの語源は」といった知識欲を刺激されるような質問も多い。役に立ちそうと感じたのは、評者が内科

医であるからかもしれないが、32章の『膿胸と肺膿瘍』の項であり、「膿胸をドレナージするかどうかの決断を支持する因子」や「ドレナージの決断に胸水pHを使用するのはなぜか」「どのくらいの期間、治療すべきか?」などと聞いてみたい質問が沢山並んでいた。さらに答えの中に文献がすぐに引用してあり、このあたりも米国らしい。

また当然、米国の書であるので、HIV関係が充実しており、稀ではあるが時に対応をせまられるHIV感染患者についても有益なQ&Aが多い。また米国らしいと感じたのは「ある裕福な若いビジネスマンが、喘息発作によりたびたび救急室を訪れた。彼が黒い喀痰を排出したことにより、あなたは診断のヒントを得た。この若者に何が起きているか?」という質問があったことである。この質問に対する答えに興味のある方は本書を見て頂こう。

この本の特徴は、監訳者もeasy readingと序文で述べているが、きわめて気軽に読め、なるほどという知識の宝庫であることと、訳が非常にこなれていて、読んでいて違和感が全くないことである。訳者のほとんどが、米国で現在も活躍中の若手の方々(国際派)であり、このような人達が日本に帰ってきて医学の世界に新たな刺激をもたらしてくれれば、大変たのしいと思われた。本文も2色刷りで大変見やすくできており、訳者による脚注も日本の商品名を詳しく入れてくれており便利である。どのように使うかは、その人次第であろうが、評者は近来稀にみるおもしろい本と感じた。このような本を紹介出版された監訳者に敬意を表したい。